



TITLE:

基研研究会報告「 H^3_e の超流動」

AUTHOR(S):

CITATION:

基研研究会報告「 H^3_e の超流動」. 物性研究 1974, 22(2): B1-B1

ISSUE DATE:

1974-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88790>

RIGHT:

基研研究会報告「 H_e^3 の超流動」

去る3月8, 9日の両日, 表記の研究会が, 京大基礎物理学研究所に於いて開かれた。 H_e^3 の超流動に就いての研究は, ここ1年半ばかりの間に, 極低温技術の進歩と共に, 急速な進展をみせて来た。特に, 現象面については, ごく最近の研究成果によって, 飛躍的にその全貌を露わにして来た。しかし一方, それらを説明するための理論的背景は, 必ずしも, 充分であるとは云えない。少なくとも, いくつかの本質的な問題が残されている。今, ここで改めて, 国内の理論家を集めて, 理論の現状を見つめ直すことも, 今後のための一石になると考え, 主として, 理論家のみによる研究会を企画した。

以下は, そのプログラムと各スピーカーからいただいた報告である。

(世話人) 黒田義浩・高木 伸

プ ロ グ ラ ム

第 1 日 (14:00~18:00)

- 理論の現状と問題点 真木和美(東北大理)
- 最近の実験について 高木 伸(東大理) B2

第 2 日 (9:00~15:00)

- 超流動 H_e^3 の輸送的性質 宗田敏雄(東教大理) B7
- 超流動 H_e^3 の粘性係数 浦田信夫(東北大理) B9
- Triplet-P pairing state に於ける超流動
藤田利光(和歌山大教 育) B11
- 流れのある時の核磁気共鳴 高木 伸(東大理) B14
- コメント 川村 清(広島大・理)
- パラマグノンと BCS State 黒田義浩(東大物性研) B21

(おことわり)

真木和美氏の報告は, 同様の内容の解説を別途本誌に投稿されることになっておりますので, ここでは割愛させていただきます。